

専修大学図書館ボランティア Compass によるビブリオバトル特集

ビブリオバトル開催！

- 開催日 2021年11月3日(水)
- 配信会場 神田10号館 Knowledge Base
- 時間 13:10~14:40

文化の日の11月3日(水)、図書館ボランティア Compass によるビブリオバトルがホームカミングデーの企画のひとつとして開催されました。ホームカミングデーとは卒業生やその関係者を母校に招くイベントのことです。例年は鳳祭と時期を合わせ生田キャンパスで行われていましたが、今年はコロナ禍のため単独の日程でオンライン開催となりました。Compass がホームカミングデーで活動を行うのは初めての試みです。図書館ボランティアの活動を卒業生や保護者の方々に伝えたいという思いから始まりました。また、この企画を実現するにあたり、保護者の会である育友会から多大なご理解とご支援をいただきました。

当日は、Compass のメンバーから6名の代表が神田キャンパス10号館にある Knowledge Base に集まり、ライブ配信を行いました。コロナ禍により活動内容に制限のある厳しい状況でしたが、オンラインのメリットを生かし、多くの方々に視聴していただくことができ大盛況のうちに終了いたしました。

当日の様子は YouTube の専修大学図書館チャンネルで公開しています(QRコード参照)。



ビブリオバトルで紹介された本は、全て図書館で所蔵しています！



ビブリオバトルとは？

ビブリオバトルは、誰でも開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーに全国に広がり、小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団楽などで広く活用されています！

ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。



知的書評合戦ビブリオバトル公式サイトより

チャンプ本

『文豪たちの友情』 人間科学部 3年・藤本朱音さん紹介

発表内容概要

みなさんには、思い出深い友人やいつまでも大切にしたいと思う友人はいるでしょうか。この本は4章に分かれ、近代の文豪たち2人1組の友情を作家たちの作品や手紙をもとに紹介している本です。この本の魅力は2つあり、1つ目はところどころにある著者の石井さんの突っ込みです。2つ目は表紙や挿絵、文章を読んでみて「ああこの出来事なんだ」としみじみと情景や文豪たちの気持ちに寄り添うことができることです。著者はこの本について、「かつてこの日本という国で生きていた、今はもういない文豪たちの『死後の友人』になった気持ちで書いたため手紙である」としています。この本を通じ、文豪たちに近づくこと、その友人になることができます。また、ふと自分の懐かしい友情や今ある縁を想うことができます。この文庫版はももとの単行本に第4章が追加されているので、単行本を読んだことがある人ももう1度読んでいただきたいと思います。



石井千湖『文豪たちの友情』
(新潮文庫刊)

発表後のディスカッション

- Q 著者の突っ込みのうちで、一番笑った部分はありますか？
- A 中原中也の元彼女が小林秀雄と同棲することになり、秀雄の部屋へ荷物を持ってきた中也に、秀雄が部屋へ上がれと誘うと中也が部屋へ上がってしまう場面です。ここで、「引き留めるほうもどうかしているが、上がるほうもどうかしている。」という著者の突っ込みに「確かにそれは気まずくない？」と思い、声をあげて笑ってしまいました。
- Q 文豪たちの実話のエピソードが書かれているのですか？
- A 文豪たちの日記や、やりとりしていた手紙、没後に座談会が開かれた時に出てきた逸話を集めてつくられたので、基本的にはノンフィクションなのだと思います。
- Q お気に入りの章はありますか？
- A 第2章の早すぎる別れをテーマにした章です。夭折した文豪と友人たちの友情がお気に入りです。石川啄木と金田一京助、国木田独歩と田山花袋の友人たちの関係性がよかったです。

チャンプ本受賞のコメント

今回紹介した「文豪たちの友情」がチャンプ本に選ばれました。みなさんに読んでみたいと思っていただくことができ、この本の魅力を伝えることができたのかなと嬉しく思います。この本で私が紹介したのはほんの少して、自分が印象に残った文豪たちの話しかお伝えできていません。他に何組も登場するので、きっとみなさんが好きだなと思っている文豪たちも書かれているはず。また私自身、あまり現代日本文学を読んでいないため、作品だけ知っていて、この本で初めて名前を知った文豪もいます。そのように文豪たちの作品をすごく好きだよという人も、あまり読んだことがないという人も楽しめる、入門書にもなる本だと思います。私の見つけられなかった魅力がまだあると思うので、みなさんに読んでもらい、この本について一緒に話がしたいです。ありがとうございました。

